

## 「経管栄養」「たんの吸引」研修会

12月11日(日)、千葉県看護協会のご協力の下、「経管栄養」「たんの吸引」研修会が行われました。この研修会は、千葉県介護福祉士会・在宅部会・施設部会が合同で開催したものです。

高齢化社会となり、これから医療的ケアが必要とされる中で、介護職員としてどのように関わっていくべきかを法制度・解剖生理・実施における注意点等について説明を受けました。

### 「介護職員等による吸引等の実施のための制度」

#### ○高齢化の現状

2005年から25年の間に約2倍の高齢者数となる。18歳人口は2/3。これに対応していかなければならないが、どうしていけばいいのか。我々の人生において、若い人が「支えてくれる」時代ではない。

「無病息災」でいるということは少なくなった。何らかの形で、生活との関わりを皆さんが支援していかなければならない。皆さんの手助けがあって、病気と一緒に生活していく。自分の生活を最期まで保っていくことをしなければならない。

#### ○社会保障・税一体改革が目指す医療・介護のサービス提供体制

病院では、少し病状が落ち着けば退院となる。いかに病院から在宅へと連携がとれているかが大切。地域の中で、どんな体制をとっていくか。

生活が出来る範囲、少し能力があれば家(地域)を中心にして生活をしていく。

#### ○介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度概要

喀痰吸引等の研修(50時間)については、きちんと学んでいただいた上で実施していただく事が必要。

患者・家族の方が安心していただけるように、チームでやっていく。安全で安心な生活、「良かった」と思っていたいただけるように援助していく必要がある。

### 「経管栄養について」「たんの吸引について」

#### ○消化器系・呼吸器系の解剖生理

各器官のしくみとはたらきについて、資料をもとに細かく説明がありました。

医療的な部分のみではなく、普段のケアの中での観察点としてもきちんと把握しておく必要があるということ、再認識しました。

※「いつもと何が違うか？」この勤がとても大事！いつも関わっている人しかわからない細かなこと。ここは介護の方の力がいらいます。

#### ○実施の手順

実際には研修を受けてからの実施となりますが、細かな注意事項まで、しっかりと学ぶことができました。

#### ○医療職との連携体制

普段からの感染予防、清潔操作・手技についての確認、医療関係者との連携の重要性について説明がありました。

※関係する職種が声をかけあっていれば危険は防げる。

自己判断ではなく、報告を。(1人で対応しようとする)

気楽に相談し合える関係性を作る必要がある。

顔の見える関係・チームとしてのパートナー。

### 特集:

・「経管栄養」  
「たんの吸引」研修会

・実習受入施設  
ステップアップ研修会

・災害ボランティア  
活動報告  
(総務委員会)



千葉県看護協会専務理事

山木 まさ氏



ちば訪問看護ステーション所長

権平 くみ子氏



ちば訪問看護ステーション主任

池田 幸氏

いつも後ろに看護は  
ついていきます。

声をかけてください。

よきパートナーとして

働いていきましょう。

(池田氏)

### 最新ニュース:

災害ボランティア体験記

「感じる・考える」

研修報告・研修案内

はれときどきにじ

「工夫してます☆」

事務局だより

## 実習指導者受入施設 ステップアップ研修会



研修会の様子

9月24日に「実習指導者受入施設 ステップアップ研修会」がきぼーる(千葉市)にて開催されました。

午前中は長野大学社会福祉学部教授・附属地域共生福祉研究所所長の中島豊氏より「日々の実践を基にした論文の書き方」、午後はNPO法人夢の湖理事長・(株)夢のみずうみ社代表取締役・琉球リハビリテーション学院長の藤原茂氏より「心が動けば、身体は動く」と、2部構成にて講演が行われました。

「日々の実践を基にした論文の書き方」では、①論文とは何か②論文の種類と実践例③論文を書く際の留意点④論文を書く意味について説明していただきました。

### ①学術論文とは

それぞれの学問分野で専門の研修者(実践者であっても当然構わない)によって書かれるもので、その著者が自分の研究で得た結果を報告し自分の意見を述べたものであり、それによってその学問分野に**新知見(新しい見方や考え方)**をもたらすもの

「心が動けば、身体は動く」では、氏のNPO法人で開設したデイサービスセンターでの実践報告を取り混ぜながら、障害のある方の心・支援者の位置について話されました。

(氏の言葉をそのまま抜粋)

心が動くのが先なのか、身体が動くのが先なのか。心が先に動くと思っています。障害のある方が「強くなりたい」「前の自分になりたい」とがんばられています。

「夢のみずうみ村」の入り口には、『人生の現役養成道場』との看板が架かっています。

・人生には定年がない。現役現役と言ってぼつくり死ぬのが理想。

・なんでもリハビリ

「バリアフリー」ではなく「バリアアリー」。プロがいるから、バリアがいっぱいあっても何とか動けるようにする



中島 豊氏



藤原 茂氏

介護福祉士の論文は「論文・調査研究」と「実践研究」の2種類しかなく、他の分野に比べ非常に少ない方であると話されました。

### ④論文を書く意味(氏の言葉をそのまま抜粋)

利用者に対するサービスの質の向上は、実践者の力量の向上なくしてはあり得ない。日々の実践を基盤にして論文を書くこと(実践を振り返り、内省し、その中から課題やエッセンスを抽出して、今後につなげていくこと)は、体験的に言えば、必ずや実践者の力量を向上させるはずである。したがって、日々の実践を基盤にして論文を書けば、利用者に対するサービスの質の向上につながることをはずである。

**書かれたもの(論文)により、知は公開され、他者に共有され、その世界に拡大・発展・継承されていくのではないかと考えられる。**

### ・「弱くない生き方」

生きてて素敵なんだと皆さんが言う

脳卒中になって良かったという人達がいる

強くあれ、ではなく、弱くてもこんなに素敵な生き方がある

### ・自分で考える、自分で決めることが感動を大きくする

一番の難敵は、「介護する職員」が何をするか

できることは自分でやる

出来ない部分のみ助ける(これが難しい!!)

できそうかどうか確認する

### ・支援する側の「正しい支援法」

できそう → 待つ・見守る

できる → 見守る・介護しない<引き算の介護>

できない → 介護する<足し算の介護>

見極めることは大事な専門性

できるんだったら手を貸さない

**介護のプロは「見守り」ができるかどうか**

**ただ手を出さずだけなら、アマチュア・ボランティア**

午前・午後とも、「自分達がこれから何を学ぶべきか」を考えさせられる講演でした。資料もたくさん戴き、参加された方も満足されたのではないのでしょうか。

この研修会は2回目も予定されています。また、6ページの「研修報告」では、「夢のみずうみ村」見学の感想が記載されています。

## 災害ボランティア体験記③

## 感じる・考える



「住む場所が変わると・・・」  
今回の事例は、「家族」です。  
災害では個人個人が被災者ですが、「1人」で避難されている方ばかりでは当然なく、「家族」で避難されている方達もいます。  
小松さんはこの事例でどう感じたのでしょうか。



Kちゃんファミリー（Uくん一家）

印象深いUさん一家の事例を紹介します。

利用者 男性 90歳代

介護度2 脳血管障害

妻(介護者) 80歳代

孫・女性 Kちゃん 40歳代(精神障害者)

※娘 60歳代 別避難所利用

緊急福祉避難所は、グループホームの2階部分の1ユニットを使用のため、約4.5畳のスペースに、少しばかりの着替えと、3組の布団を持参され移動して来られました。

一家のキーパーソンは、60歳代の娘さんで、ご本人は体育館での避難所生活を継続されています。娘さんは、3人分の荷物、地域包括との連絡、車は残ったものの、体育館の避難所と福祉避難所を何往復もされ多忙でした。

通常、福祉避難所は利用者とその家族の計2名利用ですが、被災された方の状況によりケースバイケースです。

精神障害を持っている方とのコミュニケーション構築に配慮し、お孫さんの呼び方は「Kちゃん」で統一する等の確認をしました。

彼女は喫煙者でしたが、喫煙所が屋外にあるため「火の始末」について、「1人では喫煙所には行かない」等、本人・家族・介護福祉士会のスタッフ・包括支援センター・グループホームの職員と連携し、確認

作業をしました。

Kちゃんは福祉避難所に移動されてしばらく経つと、不安げな表情も少しずつ取れ、慣れてきた様子でした。喫煙所では、「たばこが美味しいよ！」と。

彼女との会話の中で印象的な、体育館での避難所生活の様子を聞いたところ、「広い体育館で放送があると、何度も何度も『玄関掃除をして下さい！玄関掃除をして下さい！』と言われて、とても疲れたよ。わからないよ！」と繰り返し話されていました。

3月11日までは、自宅で、家族の愛情に包まれ守られて、住み慣れた地域で生活されていたKちゃんです。一瞬にして何もかも無くなり、共同生活を余儀なくされ、そして馴染めずに、混乱は当然のことです。また、利用者へのケアが中心になりがちですが、長引く避難所生活の中、Uさん一家のように大家族となると、介護者へのレスパイトケアも大事であると感じました。

震災後2カ月以上経過した時期に、職能団体のスタッフとして参加し思った事は、私達がいつも行っている「利用者理解」の大切さです。今回宿泊込みの活動をすることで、夕食後にゆっくりと利用者・家族と会話をしたり、一緒にテレビを見て笑ったりすることで、コミュニケーションが取れ、「利用者理解」に繋がったように思います。利用者の生活を支える個別の支援の必要性を痛感した次第です。



災害ボランティアでは、多岐に渡る「介護」が必要となることがわかりますね。

## 災害ボランティア活動報告(総務委員会)

総務委員会では、皆様からご協力いただいた「災害対策活動資金」をもとに、11月2日に福島県いわき市にてボランティア活動を行いました。

被災地では生命に関わる部分での支援はだんだん落ち着き、8月頃からは生活に関わる部分での支援に着目してきています。

委員会では、その生活の何を支援しようかを考え、これからの寒さに少しでも対応できるように『フリルテープマフラー』の製作をすることとしました。

当日スタッフは14名、仮設住宅(153世帯)にお住まいの30名を対象として行いました。

片道4時間30分、活動はたったの2時間でしたが、非常に好評で、「また来て」という声がたくさん挙がりました。

活動に参加した会員より感想が届いていますので、ご紹介します。

(あれー！どこに突っ込むんだっけ！)

(うわー！棒が抜けたー！)

大騒ぎのSさんの隣に、先生になりすましての初心者のお私がいるのだから、たまたまものではありません。何度も編んではほどこき…。

(うちは原発の警戒区域だからね…)

(四ツ倉港はもうダメなんじゃない…)

編みながらポツリ、ポツリとつぶやくSさんの表情から、何かを忘れたい、でも家族の為に生きなくては、という心の叫びが聞こえるようで、私は胸が潰されそうでした。生半可な励ましは通じるはずもなく、何も言い返す事ができない私は、ただひたすらマフラーの目を落とさないように見守り、マラソンランナーを併走するように、頑張れ！それ！と精一杯声を出しました。

そして…(ギャー！！)という悲鳴の下、制限時間オーバーで仕上がったブルーのフリルマフラーと、根をつめた彼女の赤い目。大きな大きな拍手の中で、記念撮影が行われました。

ありがとう、Sさん。ありがとう、福島皆さん。忘れられない笑顔に出会えて、かけがえのない一日になりました。福島の復興を、心から祈らずにはいられません。

最後に、忙しい中休みを作ってくれた職場のみんな。Sさんに負けず劣らず不器用な私に、根気強く指導して下さいました。これからも何事にもチャレンジ！の精神で頑張ります。

### 「福島県いわき市を訪問し」

集会所でマフラーを編みながらの会話も自然と震災の事が多く、「何度話しても涙が出てくる。涙の枯れる事がないのは不思議だね。」と笑いながら話されていました。震災後東京や千葉へ避難されていた方は「皆親切で有り難かったよ。でもね、どんなに大変でも、地元で皆と一緒にいるのがいいんだよね。」と話されました。震災の復興が進むにつれ、心災についてはまだまだできていないように感じ、自分の居場所があること、心の癒される場所がある事の大切さを感じ帰ってきました。



仮設住宅の集会所は、予想を上回る人で賑わいました。

編み棒を動かしながら、ある60代の方は「編み物は若い時にちょっとやった事がある。…津波で全部失くしちゃったから、こういうものがあるって気づかないものね。」と、再び編み物に出会えた喜びを語って下さいました。

また、ある50代の方は、編んでいる途中でふと顔を上げ「(編み物は)集中できるから、色々な事を忘れられていい…」と仰るのです。

今年80歳になるという方は、「こんな事になって、こんな事(大津波で家を失くした)に当たるなんて思ってなかった。何百年に一度だものね。這い上げられるかしらね…」と、笑顔でさりと言っていました。

1人ひとりの方がそれぞれに、辛い気持ちに耐えて、明るく振る舞い頑張ってもらってる。とひとひと伝わってきます。

後半になると、マフラーや帽子を完成させた喜びの声が次々に上がり、その度、拍手喝采で

### 「忘れられない笑顔」

(ほら、編み物の先生が来たよ…)

いわき市の仮設住宅でこの言葉を聞いた途端、私の胃袋からジュワーと変な泡と痛みが出てきました。

津波の後、火災で焼け野原状態となった久ノ浜。津波にやられ、一階が筒抜けになった道の駅よつくら港。悲しそうにぱたぱたと吹きさらされている何枚もの大きな大漁旗。先程目に飛び込んできた光景が頭の中を駆け巡り、震災から8か月、まだ何も手が付いていない現状に気落ちする中で、正直な所私は、後悔の思いでいっぱいだったのです。(編み物もやったことない私に、この苦しみの中の被災者の方々を励ませるわけがない…)

しかし、その思いや胃の痛みは瞬間に払拭されました。

自分の好きな色の毛糸を選び(これがまたフリルテープのマフラーで可愛い！途中まで編んであるので、出来上がりがすぐにイメージできる！)時間内に仕上げ、そのまま首に巻いて帰れるこの企画に、狭い集会場内はすぐに満員状態になり、熱気がこみ上げたのです。私もおそおそと若いお母さんグループの中に飛び込みました。

目のくりくりした可愛いSさんは、どうやら天性の不器用ちゃんのようにでした。

す！出来上がったマフラーを巻いて写真を撮す段になると、うつむき加減になってしまう方が多く、純な県民性に大変交換を抱きました。

(これをきっかけに、編み物とコミュニケーションの輪が広がりますように！)

私達の乗ったマイクロバスが見えなくなるまで、大勢の皆さんが手を振って見送って下さいました。これからも千葉からずとずと応援しています。



仮営業中の、たったひとつしかない道の駅

全てを掲載できないのが残念ですが、この活動は非常に好評を得ました。

「また来て」の声はもちろんですが、この後、「自分で編みたい」「同じ仮設の人達に教えてあげたい」との声があがっているそうです。しかし、現地には材料(羊毛)がありません。会では、活動資金の残金をその材料費に充て、現地に送る計画をしています。

今後も随時、ご報告していきます。

## 研修報告・研修案内

○9月10日(日)

講義:「腰痛を防ぐラクラク動作介護」

生活支援:「介護場面に活かす動作  
介助技術」

講師: 佐藤幸江氏 石塚貴之氏

会場 千葉県社会福祉センター 5階

参加者数 48名

○10月23日(日)

「介護の日・快互の教本勉強会」



介護の基本について教本を使い、実際に動きやポイントを押さえて学ぶ事が出来ました。

参加者は初心者が多く、一つひとつの動きを体験することが出来て、2グループごとに取組みも違い、積極的に学んでいました。「明日からの実践に活かしたい」との感想も聞かれました。

講師の、手際良く綺麗な動きを見ながら、日々の介護においても勉強していかなければ、と痛感しました。

(香取 記)

○10月8日(土)君津ブロック

「重度障害者の自立生活を支える」

・一般参加者で「介護の仕事始めたばかりなので、これからの仕事にとっても役に立つと思った。参加して良かった。」と話して下さいました。

(小川 記)

○11月16日(水)千葉ブロック

「秋の施設見学と交流会」

※また行きたくなる通所サービス

11月16日(水)「夢のみずうみ村」浦安デイサービスセンターへ施設見学に行ってきました。作業療法士の藤原茂氏が代表を務める「バリアアリー」の通所施設です。

まず目につくのは、白い壁に大きく描かれた『夢』の文字です。そして玄関には『人生の現役養成道場』と書かれた立札が掲げられていました。

『人生の現役道場』とは、生活する力・生きる力をつかむ場所のこと。1日のすべてを、利用者が自己選択・自己決定して過ごします。さらに、傍から見れば不親切と思える「バリアアリー」で施設内のバリアを乗り越えることこそがリハビリにつながる訓練であり、至る所にそのリハビリを楽しむ仕掛けが、多種多様なプログラム・メニューになって備え付けられていました。

利用者は小学生から89歳の高齢者まで幅広く、職員は18人、送迎車は6台。二階建ての施設は天井が高く、中央に自然光を取り入れる天窗があり、一階まで光が射し込んでいました。

入口ホールに、自分の1日の予定を思いのままに立てるプログラムボードがあります。メニューのマグネットを取り、自分の名前横の9時から15時までの予定マスに貼り付けます。自主的に選べるメニューは、種類別にまとめられていました。

脳を活性・手先を鍛えるメニュー、身体を鍛えるメニュー、身体を癒すメニュー等、また、入浴の時間も選べるようになっていました(深めの一般浴槽、介助は有り無し選べる)。

施設全体の環境がリハビリの機会を提供するように作られていました。単に機能訓練とせず、生活をする方法の学習の場所・生きがいをつかむ場とする。そうしたプログラムが多彩に用意されていました。

マッサージは人気があり混んでいましたが、そのマッサージを受けるには、スロープを上がって少し高い場所まで行かなければなりません。

○11月23日(水) 東部ブロック

「介護の日・いきいきフェスタTAKO」

この地域の方々には「健康」にはとても関心があるように思いました。地域のコミュニティーの場に多くの方が集まる中で、少しでも介護について知ってもらえるチャンスを持つことができ良かったと思います。

当日は本部テントの隣にアンケートをもらうコーナーを貸していただき、始まるごとに人が集まり、地域の方とスタッフが、快く会話しながらお互いに笑顔でやりとりをすることができました。介護の日を知っていただくとともに、地域の中で身近な声を聞くことができました。パンフレットを見ながら、「介護してきたよ。」「もう終わったよ。」と4人の年配の方が、その頃を思い出して笑いながら気さくに話してくださいました。

相談コーナーでは、年配の男性が介護の勉強をしたいとのことで見え、学校の紹介とパンフレットを差し上げました。

多古町の住民の皆さんのあたたかい人柄に触れ、スタッフも一緒に楽しめた一日となりました。

(寺本 記)

ん。勾配がある廊下を歩き、歩行訓練を自然に行います。壁があり、寄りかかって移動したりできるようになっており、床には万一の転倒に備えて木材の板が敷かれていました。

広い施設内は、個別メニューを行うために空間をユニット化しており、丸見えを避けるために薄い壁で仕切られていました。

移動する行先や部屋を共通して呼び合うために、『お台場』や『隅田川(トイレ)』等、命名による場の特殊化がされていました。部屋の行き来に通る壁や廊下には、漢字クイズや札所が設けてありました。

モノづくりや娯楽プログラムは2階にあります。2階へは『富士山登山』と銘打たれた、高齢者の方にとってはきつい29段の急勾配の階段があります。まっすぐに伸びたその階段には手すりはなく、掴んでも安定しないロープが張ってあります。そこを皆さん上がっていました。

2階には家庭で生かせる体験や経験、個々の生活背景に合わせた活動として、パン作り、陶芸、片手で作る料理教室などがありました。

「夢のみずうみ村」では、何をやるにも村内通貨(紙幣)『ユーメ』を使います。通所初めに7000ユーメを貰います。血圧を測って50ユーメ。その他カジノや麻雀で増やすこともでき、施設のすべての行動に使用します。パン作り、陶芸、料理教室などの原材料費が発生するものだけ、別途費用がかかります。

備品類の同一規格を避けるため、テーブルも椅子もタンスも、すべて中古品店で買い集めたバラの家具類でした。食事のテーブル配置は分散方式で、個々に食事を楽しんでいました。

職員は等間隔に分かれて、お互いに目配りしながら利用者の見守りをしていました。

プログラムを自己選択、自己決定して1日が始まり、終わります。みんなが一斉に同じことをしている集団メニューが通所施設でやる気を失うもとである。と考える、代表の藤原氏がご自身の講演で紹介されていたのが、同郷の金子みすずの詩の一節、「みんなちがってみんないい」でした。ここではまさに、個々の違いを尊重していました。

自然光が射し込む、明るくきれいな、また行きたくなる通所施設でした。



いきいきフェスタTAKO

○12月10日(土)

講師養成研修「入門編」「実践編」

(入門編・アンケートより)

・シラバスの必要性、重要性を理解できたと思う。現在、実習指導者をしているので活用していきたいし、施設内外での研修にも使用していきたい。

・現在いくつかの養成校で講師をする機会がありますが、いつも時間不足や何を伝えたらいいか悩んでいました。シラバスを学ぶことができてよかったです。

・「教える」ことは、自分自身がしっかり学び、知識を要さなければ不可能だと理解させていただきました。

・松下先生のユーモアと笑顔で、先生のような方になりたいと思いました。

・村越先生の介護福祉士としてのプライドを持ってお話されている姿が励みになりました。

・伝えることの難しさを楽しみに変えて伝えられれば良いのかなと感じました。

・人に伝えるには、根拠をもって論理的に伝えるということの必要性、自分のスキルを上げるため、たくさんのひきだしと高いアンテナを持つことの大切さがわかりました。

・伝える、伝えることの大切さを再確認できました。身体言語を読み取れる能力がある。介護技術にも賞味期限がある。との言葉が印象的でした。

・先入観、固定観念に固執しないこと→ドキッとしました。

(実技編・アンケートより)

・「実技はいいかな?」と思っていましたが、とても良いポイント(忘れていたところ)を思い出したりしました。

・「もういい」ということはない!と強く思いました。

・介護技術の根拠の奥深さを理解できました。

・改めて介護技術について身につける機会、そして根拠を示し、伝え方について、と理解が図れたと思います。何よりも、受講者側に沿った視点と講師側の視点として、細部について貴重な体験をもとに話を聞いたことにより、分かりやすかったです。

○介護福祉士国家試験対策・実技模擬試験

中央 2月11日(土)

①9:00~12:00 定員 20名

②13:00~16:00 定員 20名

千葉県社会福祉センター 5階

千葉 2月26日(日)

③9:00~12:00 定員 20名

④13:00~16:00 定員 20名

千葉市ハーモニープラザ

東部 2月19日(日)

⑤9:30~12:00 定員 10名

香取市佐原中央公民館

東葛 2月26日(日)

⑥9:30~12:30 定員 5名

⑦13:30~16:30 定員 5名

我孫子けやきプラザ

君津 2月26日(日)

⑧9:30~12:00 定員 20名

木更津市民総合福祉会館

南部 2月25日(土)

⑨9:00~12:00 定員 10名

睦沢町社会福祉協議会

(睦沢福祉交流センター)

※人数に制限がありますので、お早めにお申し込み下さい(先着順)。

※受験料 3000円(当日お支払い下さい)  
 ※各施設のご協力を得て、当日のみ会場を提供していただいています。直接会場(施設)に問い合わせをされますと大変ご迷惑をおかけしますので、必ず「介護福祉士会事務所」へお問い合わせください。

○南部ブロック研修会

日時:平成24年2月25日(土) 13:00~16:00

テーマ:介護技術ステップアップ研修会

~住み慣れた地域での暮らしを支えるために!~

「個別対応の介護技術

移乗・移動動作・着替え・食事介助など

~実際に動いてみよう~」

講師:帝京大学ちば総合医療センター・リハビリテーション部

作業療法士 多田 智氏

会場:睦沢町社会福祉協議会(むつざわ福祉交流センター内)

定員:30名

参加費:無料

※人材確保・定着事業の一環として開催しています

○葛南地区・人材確保対策事業

日時:平成24年1月12日(木) 13:30~16:30

テーマ:「実践例から知る センター方式」

認知症の人を支える人材・チームを育てよう

~認知症の人と家族が安心して暮らしていくために~

1) センター方式を活用した事例報告

2) 地域連携の道具としての センター方式情報提供

講師:認知症介護研究・研修東京センター研究部

副部長 永田 久美子 氏

会場:市川市I-link(アイリンク)ルーム

定員:100名

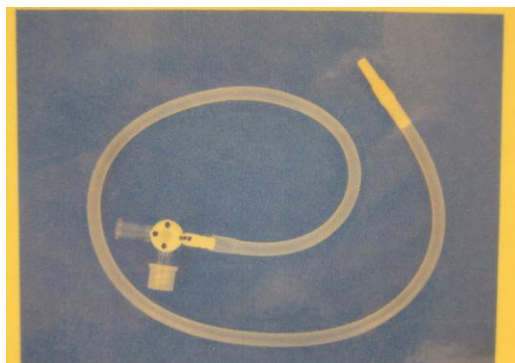
参加費:無料

## はれときどきにじ 「工夫してます☆」

## 香取市 回復期リハビリ病棟・特殊疾患病棟・療養病棟

病院では、患者様の状態により酸素マスクを使用することが多く見られます。

こちらの病院では、酸素マスクの長時間使用により、掻痒感や耳介が赤くなる患者様への皮膚への刺激に対する配慮、従来の酸素マスクのゴムへの工夫をしましたので、ご紹介します。

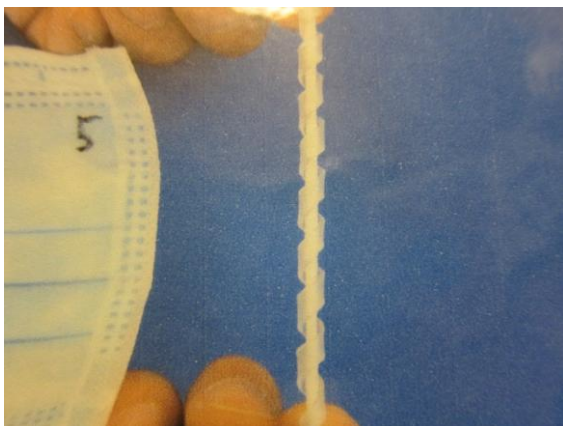


「快適に酸素マスクを使い続ける方法はないか？」

思考錯誤した末、点滴用延長チューブ(エクステンションチューブ)を使用して、皮膚への刺激が少ない酸素マスクの固定具を作成しました。(これはグループ病院の学会でも発表し、好評でした)

作り方は簡単。EXチューブに5mmの切れ目を入れ、酸素マスクのゴムに取り付けるだけ。

切れ目がないチューブでは、耳介上部に加圧が集中してしまい発赤や疼痛があるようです。5mmの切れ目を入れることで、耳介の形状に合い、負担も軽減されるようです。



これからの季節、マスクをする機会も多くなりますので、耳へのストレスを感じている方も試してみたいはいかがでしょうか？

一般社団法人  
千葉県介護福祉士会

〒260-0026  
千葉市中央区千葉港 4-3  
千葉県社会福祉センター  
3階

TEL:  
043-248-1451

FAX:  
043-248-1515

E-MAIL:  
Kai5niji@poem.ocn.ne.jp

編集: 広報委員会・広報委員長

皆様からのご意見やご質問  
をお待ちしています。  
何でもお知らせ下さい!

## 理事会報告

23年度

第6回 23年9月23日(金)

出席者 16名 委任状 9名

(内容)

組織強化(会員を増やす為に)

地域支えあい体制づくり事業について

福祉人材・定着フォーラムについて

各委員会からの議題・報告

第7回 23年12月3日(土)

出席者 15名 委任状 9名

(内容)

会規則集について

災害ボランティア報告

介護ボランティア講習会について

各委員会からの議題・報告

### 会員数

(12月4日現在 822名)

東葛ブロック	177名
千葉ブロック	165名
君津ブロック	99名
東部ブロック	87名
南部ブロック	77名
北総ブロック	217名
準会員	6名

### 新会員紹介(正会員で同意された方のみ 敬称略、順不同)

斎藤 一江(東部) 斎藤 純平(君津) 松川 典代(東葛) 小川 和美(南部)

高吉 洋美(南部) 石森 晶子(東部) 山崎 登茂子(北総) 島袋 建自(東葛)

渡辺 愛(東葛) 青山 欣弘(千葉) 篠原 敦未(南部) 大里 理(北総)

小野 幸代(北総) 森下 愛子(東葛) 臼倉 史(東葛)

※( )内はブロック名

### 事務局だより

・会費は納入されているのに、申込用紙が届いていない方がいます。

・登録番号が申込書に記載されていない方は、会員証や生涯研修手帳の手続きができませんのでお知らせください。尚、会員証発行までには多少時間がかかりますこと、ご了承ください。

### 編集後記

急に寒くなってきました。

職場では11月初め頃から、職員へのインフルエンザの予防接種が始まりました。自身の体調不良によりその波に乗り遅れ、やっと「OK」となった時には、職員だけではなく利用者の予防接種もほとんど終了してしまいました。まだ接種していませんので、手洗いやうがい非常に気を遣うようになりました。改めてスタンダードプリコーション(標準予防策)の重要性を実感! (岩)